

2020年4月15日

2020年度塑性加工春季講演会の中止にあたって

日本塑性加工学会会長 米山猛

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、外出の自粛、教室での講義等の停止、密集した場所での集会の自粛が求められています。大学の研究室においても学生はできるだけ通学せず、自宅に対応するよう求められております。愛知県においても緊急事態宣言が発せられ、会場となる名古屋工業大学から、6月末まで会場使用を控えていただきたいとの依頼がありました。

こうした中で、人命を第1に考える必要性から、2020年度塑性加工春季講演会の開催は中止となりました。講演論文集の発行も行わず、次回の秋の連合講演会が活発な講演発表会となることを期待することにいたしました。講演会はあくまでもその講演会場で発表と活発なディスカッションが行われ、研究者同士の交流を行う場であり、講演論文集もその一環として発刊されるものであり、単に報告集として発行するものではないと考えます。昨年秋の連合講演会のように講演論文集がすでに印刷されていた中で、台風や地震等の不測の事態によって講演会中止となった場合には、当日の講演発表が実施できなくても発表がされたとみなすことが妥当だと考えますが、今回の場合のように、講演論文集の発刊前に講演会の中止が明らかになった場合には、講演論文集の発行をなしにして、次回の講演会での発表をお願いし、活発な講演発表と議論、研究交流することが妥当であると判断いたしました。昨年の連合講演会が中止になったのはとてもショックでした。講演論文集は発行されており、講演発表が行われたことになりましたが、やはり実際に講演発表をその場でお聞きして、ディスカッションするのと比べ、印象が薄いものとなっており、講演会の場での研究交流が大切なものだと感じております。この2020年度塑性加工春季講演会で講演発表を予定されていた方、またテーマセッション等の企画をされていた方は、その機会を秋の連合講演会に移して、充実した講演、企画を実施できますよう、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスは、治療薬もワクチンもなく、非常に感染力が強く、感染した場合の重症化率も大変高くなっています。このような状況の中で接触感染、飛沫感染を極力防がねばなりません。感染を終息させるまでの対応は長期化することが予想されます。検査も追いついておらず、どなたが感染しているかを確認することもできません。改めて科学的な解明が追い付いていないことを実感いたします。また人工呼吸器の不足など、医療分野での機器の生産・開発が求められていることから、医療分野においても塑性加工をはじめとする生産技術の活躍の場が求められていると感じます。塑性加工学会として取り組む研究分野の進展も期待されていると感じるところです。

この新型コロナウイルスの感染は普段の生活にも産業にも大きな打撃を与えるものですが、その克服に向けた努力により、新たな進歩が生まれ、日本塑性加工学会の活動にも進歩が生まれることを期待したいと思います。